

兵庫県産の植物図 (15) ガガイモ科 Asclepiadaceae

矢内 正弘

Masahiro YANAI : Illustrations of plants in Hyogo Prefecture (15) (Asclepiadaceae)

この報告はガガイモ科12種である。

図1 クサナギオゴケ *Cynanchum katoi* Ohwi
神戸市北区 June 17 1994 S. Miyake3027. 背丈50~70cmの多年草。地下部は数年間の茎の基部がくっつく。それから多数の根が出る。茎は上部も下部も微小な毛がつく。葉は多くは茎の上部2/3以上につき、対生、葉柄は2cm前後、葉は長さ20cm程度、うすい。表側は無毛、裏面は脈に沿って微毛が出る。花序は上部に長く数少なく枝分かれして、先に花がつく。苞は小さく、1mm程度。萼片はわずかに微毛が見られる。花は白色、花冠の径は17mm(標本を湿らせて展開すると)、無毛。副花冠は小さく、三角形。

シタキソウ *Stephanotis mucronata* (Blanco) Merr.
花: 三原郡南淡町 June 8 2003 T. Kobayashi 38204.
果実: 同 Nov 10 2002 S. Nanko2045. 県内ではごくわずかに生育するつる性の多年草。茎は太くなると径4mm、灰褐色、たくさんの皮目が出る。白毛が多い。細い茎にはその毛が密生。葉はぶ厚く、裏面はやや白っぽく細毛が多い。表はまばらに毛が見られる。葉腋から短い花序が出る。茎を切ると白液が出る。葉は基部やや心形となる。花序には2~4個の花をつけ、花は白く、径25mm、花冠は5に分かれ、花筒にも微毛が出る。花筒部の外側は毛が少ないが内側には長毛が密生する。副花冠は直立し、長さ3~4mm。花粉塊の中央には黒紫色の光沢ある細長いものが見られる。果実は長さ12cmの大きさが2個直線的につく。太さ2cm、表面には微毛が見られる。中に1cmの種子が含まれる。それは2~3cmの白く細い長毛がつく。中の種子はやや小さく長さ7mm、平たい。

図2 フナバラソウ *Cynanchum atratum* Bunge
神戸市北区山田町 May 30 1976 N. Fukuoka9067.
地下部は根茎が7cm。背丈は60cm、直立する。全体的に短毛が多い。花序は葉腋に柄がなくつき、5~10個。花は赤紫色。副花冠はずい柱の周囲に接して短かつ。果実は7cm。垂直に立つ。

コカモメヅル *Tylophora floribunda* Miq. 神崎郡大河内町宮野 July 3 1988 MY1071. 林や池などの

付近に多く見られるつる性植物。花序は葉身よりもよほど長く伸び、枝分かれする。小さい花が多数つく。花は径4mm、やや紫色を帯びる。花冠には短毛がある。果実は水平に開き、1個で約5cm、種子は6mm、2cm以上の長白毛がつく。

図3 キジヨラン *Marsdenia tomentosa* Morr. et Decne. 猪名川町 July 29 2006 Ushijima44278. 県内ではほぼ北緯35°以南に分布する。林内の暗い所では開花しない。地下茎は太く、径8mmにもなる。地表をはって所々から根を出す場合も見られる。葉は光沢があり、常緑性、ほとんど丸い。径10cmを超える。表面は光沢があり、裏面はやや白い。葉柄や茎を切ると白液が出る。花序は葉脇に3cmの軸に30個程度の花をつける。花柄は短毛が多い。花柄は長さ5mm。苞は4~7mmばかり。萼片の先端は丸く、短毛がある。花冠の内側下部には短毛が目立つ。副花冠は雌しべの周囲に立つ。花粉塊も5個見られる。果実は長さ8~10cm。中に綿毛のついた種子を含む。種子は長さ1.5cm。3cm以上の白い長毛がつく。

スズサイコ *Cynanchum paniculatum* (Bunge) Kitagawa 朝来郡和田山町 竹田城跡 June 1 1998 MY27040. 向陽の湿地や岩場などに生育する多年草。地下部は短い根茎があり、1~2mmの根が70本前後出る。背丈60cm、直立する。苞は長さ1~3mm。花序は長さ10~20cm、花は軸の先にまばらにつく。それはうすい黄褐色、径10mm程度。萼片は三角形。花冠は細いすじが入る。副花冠は大きく目立ち、その基部はやや袋状となり、蕊柱よりやや低い。果実はやや下向きにつき、長さ6~7cm、先端付近は細くなる。種子は白色の冠毛がつく。

図4 オオカモメヅル *Tylophora aristolochioides* Miq. 花: 宍粟郡波賀町音水 July 24 1991 Y11548. 林内のやや暗い場所に生育。地下部は数10本の15~30cmの長い根が見られる。茎、葉、葉柄などには微小な毛が見られるが目立たない。花序は1~3cmしかなく花も赤紫色、径4mmと小さいから、よく注意しないと見過ごす。花冠の内側にはちじれた毛が目立つ。副花冠はずい柱より低い。花粉塊は小さい。果実は直線上に2個並び、長さ4~6cm。

ガガイモ *Metaplexis japonica* (Thunb.) Makino

花：佐用郡上月町上上月 Aug 31 1993 MY17305。
果実：加古川市JR加古川駅の西，加古川河川敷 Oct 28 1995 MY24010。地下部は太さ3mmで白色，横に長く伸び40～60cmにもおよぶ。またどうやら新個体を地上に出している模様だ。向陽の野原，荒地などを好むつる性植物。茎には微毛が出る。茎を切ると白液が出る。葉は表面やや光沢が見られ長い柄がつく。花序の軸は3～5cm。短毛が多い。5～15個の花が集まる。萼片は長さ10mm，5片。花冠は肉厚で5片に分かれ反り返る。白色だが，中央に桃色の線があり，白い微細なちじれた毛が見られる。副花冠は小さく下部に付録的につき，白い。柱頭は長く突き出て，先は曲がる。捕捉体は濃い赤褐色，それから左右に花粉塊がぶら下がる。果実は太くて長さ10cmを超える，表面には不規則な突起が見られ大きくなる。中にはおそらく1000個を超える数の種子を含む。種子は長さ7mmで平たい。白毛があり風などによって運ばれる。

図5 **コイケマ** *Cynanchum Wilfordi* (Maxim.) Hemsl. 花：佐用郡三日月町三原 July 12 1991 MY 11092。果実：猪名川町 July 12 1991 Ushijima8616。次種よりも葉は小さく，葉には微かな毛が少し見られるが目立たない。花の柄は葉柄より短い，同長。花序は20前後の花が集まる。その柄は5mm。花柄には短毛が多い。花冠の内側や縁には短毛が多い。副花冠の裂片は低く，付属体はない。果実は10cm以上。

イケマ *Cynanchum caudatum* (Miq.) Maxim. 花：岐阜県 July 23 1994 MY20437。果実：山梨県 Aug 22 1990 MY8894。地下部は長さ10cm内外，凹凸が大きく塊状の根をもつ。それから数本の茎が出る。つるとなり他の植物におおいかぶさる。茎など切ると白液が出る。葉は基部，強く心形となり，葉柄は5～8cm，葉身は幅6cm程度。花序は葉柄より長い総柄の先端に20個前後の花がつく。その基部の苞は長さ1～2mm。花柄は2cmほど。萼は5裂片，わずかに毛が見られる。長さは花冠裂片の1/5程度。花冠は黄緑色，へりは下に巻き込む。上面には針状の短毛が見られる(イ)。副花冠は白色，内側に付属物(ア)がつき出る。副花冠は中心のずい柱よりもずっと背丈が高い。花粉塊は捕捉体の両側にぶら下がる。捕捉体は赤褐色。花粉塊は黄緑色，Aの付属物でかくされている。果実は細長く長さ8～11cm，中に長さ8mmばかりの種子が含まれる。それには長い白毛がつく。

図6 **イヨカズラ** *Cynanchum japonicum* Morr. et Decne. 淡路島。詳しい産地は省く。花：MY20269。果実：Y. Ono44925。海岸や島にわずかに産する。地下部は1～3mmの太さの白い根が100～300本見られる。茎を切っても白液は出ない。茎や花柄には微小な毛を生ずる。背丈60cm。5月，開花。5cmの総柄に10～20個の花がつく。花柄は7mm，苞は長さ3mm前後，う

す黄色の1cmの花である。萼片は先端よくとがる。花冠は基部で合着し先は5に分かれる。中央の最も外側に5枚の副花冠が見える。副花冠と雌しべは背丈が同じ。雌しべは柱頭だけが上から見える。その周囲に雄しべの膜質物質の下に2個の花粉塊が隠れている。果実は6cm，中に白毛のついた種子が多数含まれる。

タチカモメヅル *Cynanchum nipponicum* Matsum. var. *glabrum* (Nakai) Hara 花：神崎郡大河内町砥峰高原 July 28 1996 MY24534。果実：加西市剣坂 Nov 4 2007 MY & A. Matsunaga44926。高原の湿地や池の土手などの向陽の所に産する多年草。背丈1m。基部付近は直立するが上部はややつる状となる。地下部は1～2mmの白またはうす褐色の根が100本以上出る。茎は切っても白液は出ない。茎は微毛が生える。葉の表裏とも短毛が見られる。花序は節に短くつき5～10個の花をつける。2mmの短い花柄があり，それにも短毛がある。花は展開すると1cmになる。赤紫色。果実は長さ5cm。種子は6mm，やや平たい。それに白い綿毛がつく。

注)ここに出てくる植物用語(捕捉体，花粉塊，副花冠など)は長田武正「原色野草観察検索図鑑」1981保育社による。

図1 クサナギオゴケ

シタキシウ

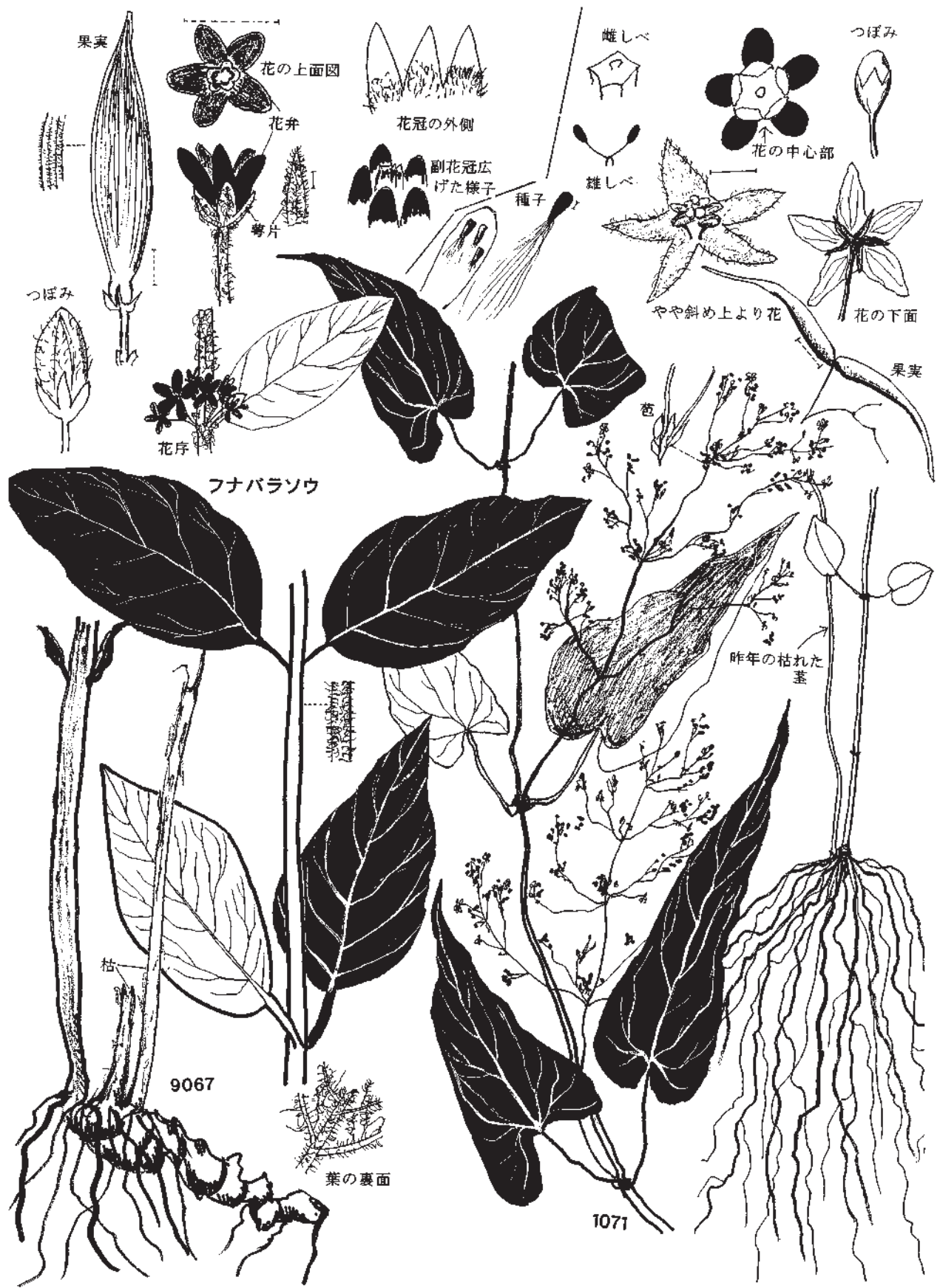


図2 フナバラソウ

コカモメヅル

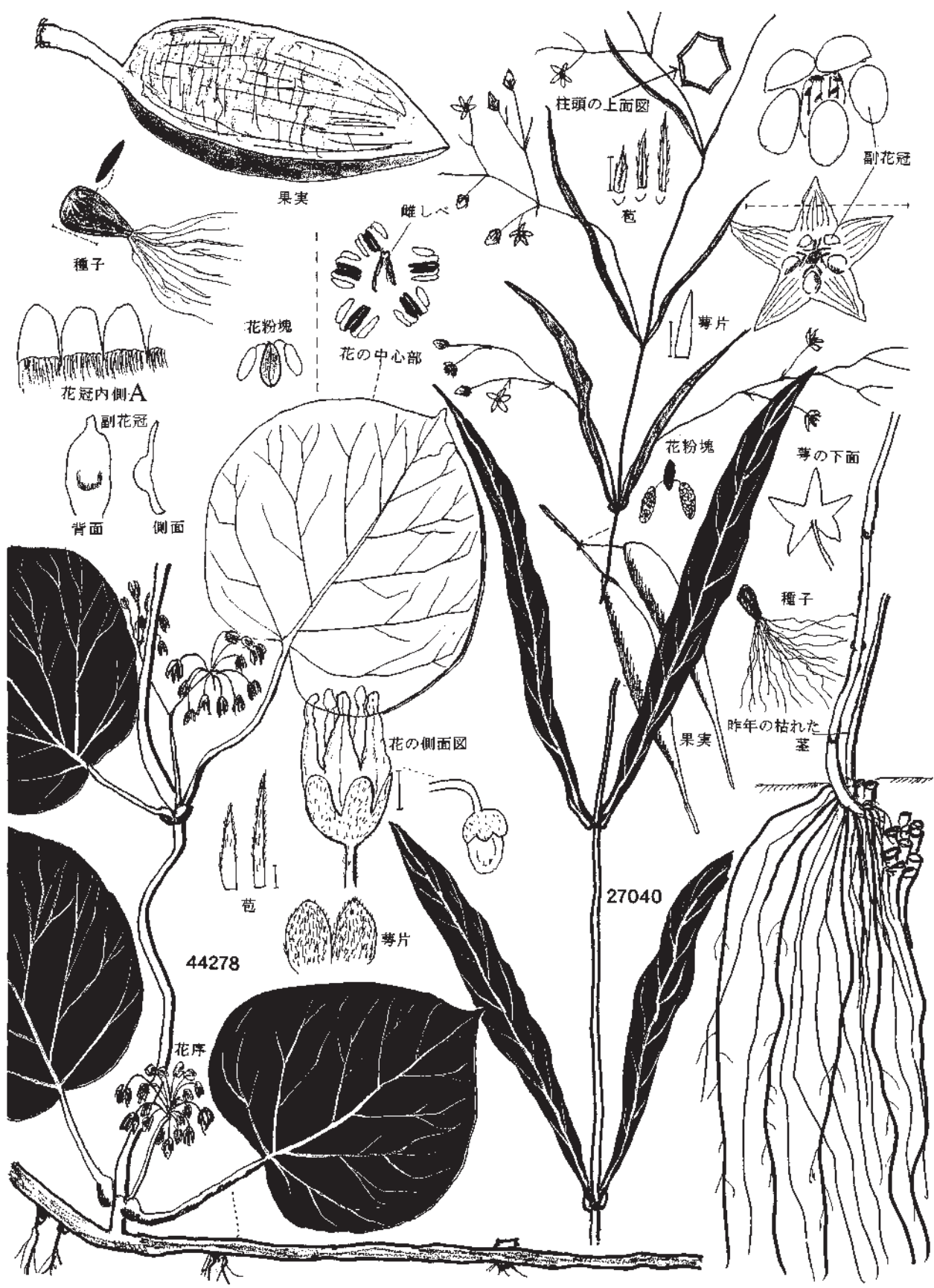


図3 キジョラン

スズサイコ

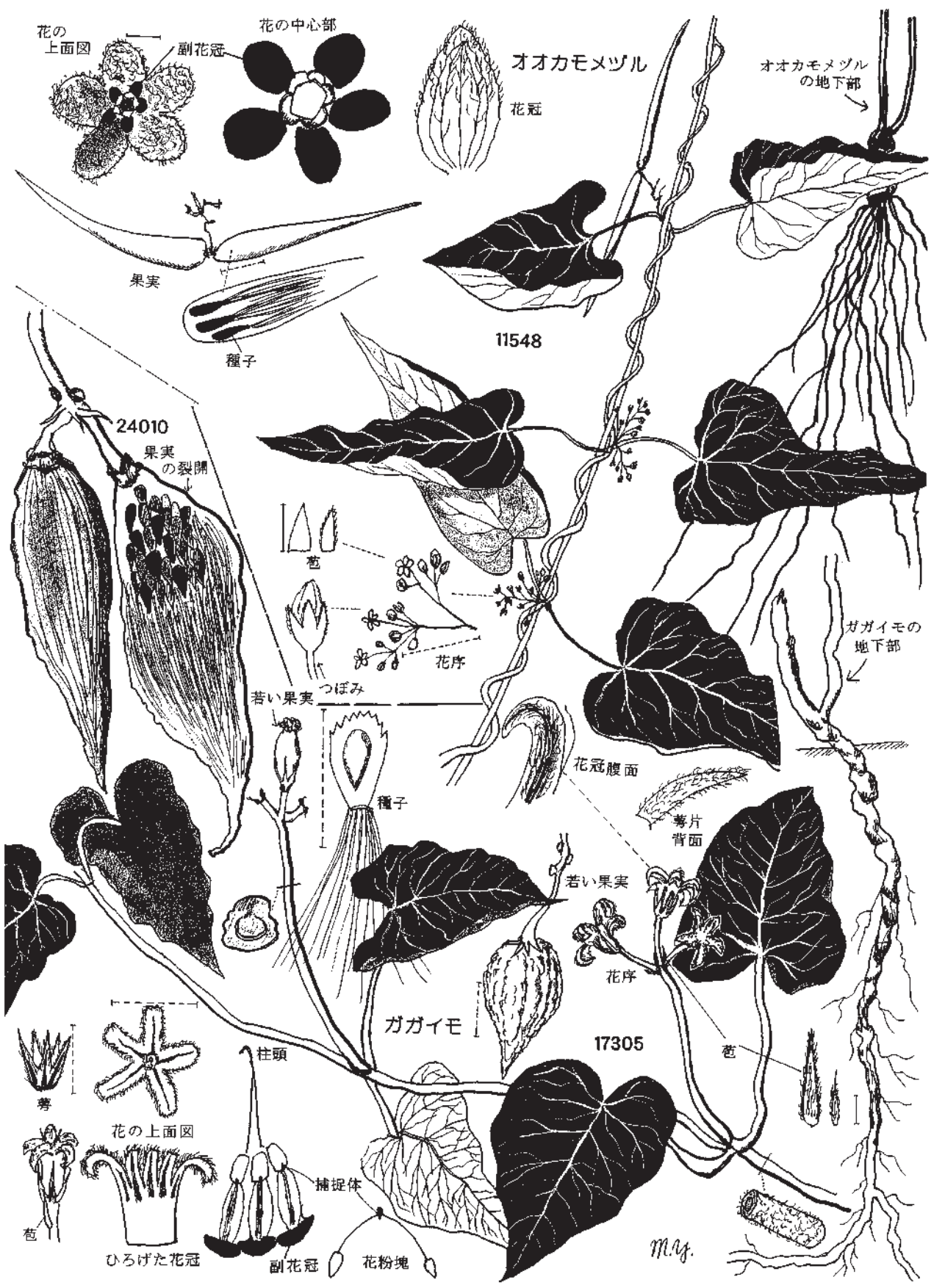


図4 オオカモメヅル

カガイモ

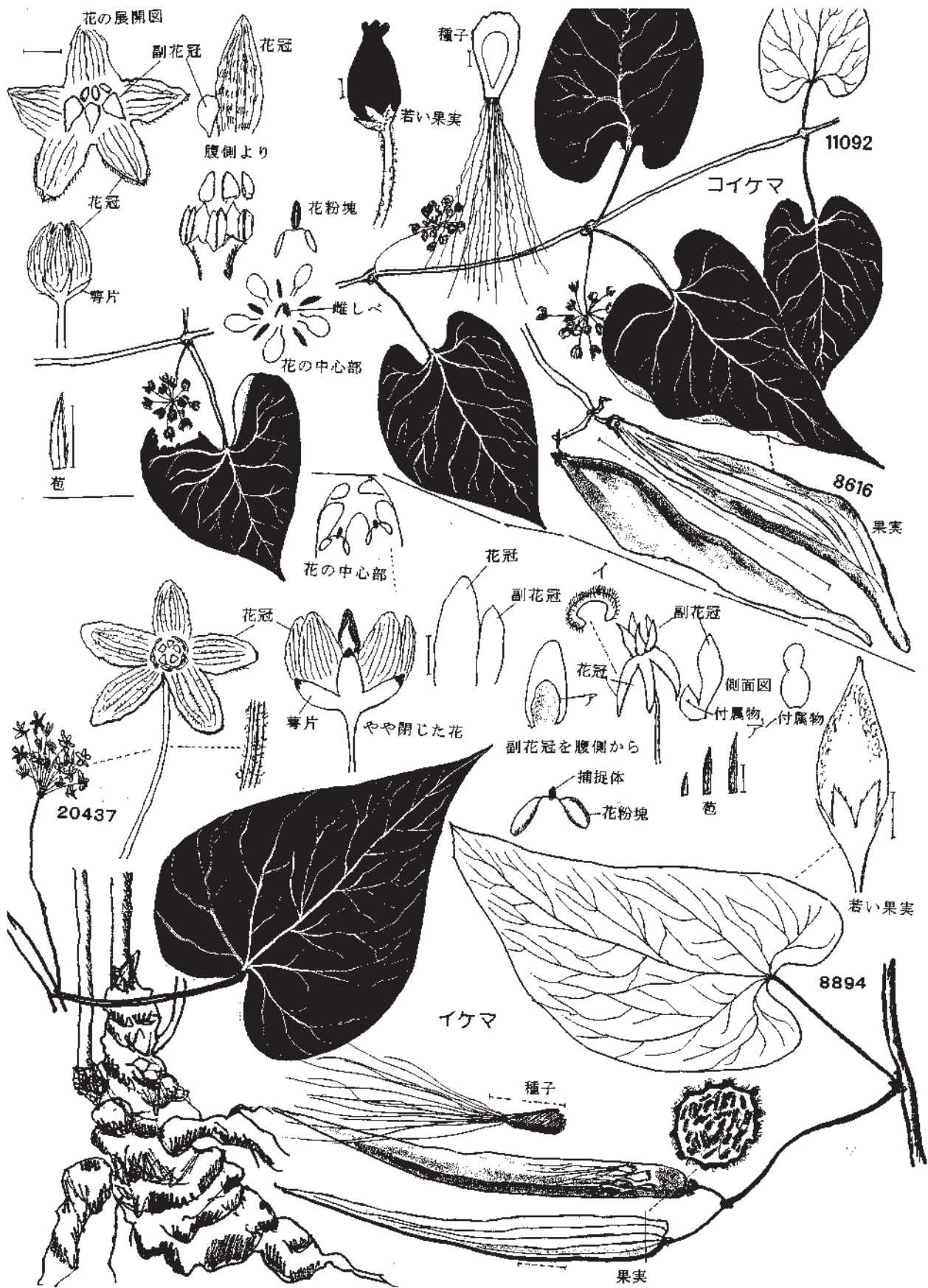


図5 コイケマ イケマ



図6 イヨカズラ

タチカモメヅル